

歴史散歩

れきしさんぽ No.27

北野の歴史



北野天満宮楼門 ①

1 子どもが歌う郷土史

郷土の歴史といえば、研究機関が調査したり、地元の古老が言い伝えたりするものと考えていますか？歴史は専門家や大人の特権とってはいませんか？

実は、意外にも、地域の歴史は子どもたちが一番よく知っているということをご存知でしょうか？小学校の校歌には、その地域で大切にされているものが必ず歌われています。子どもたちに校歌を歌ってもらえば、その地域で一番大切な歴史はわかる、というわけです。

では、北野町で、どのように歴史が歌い継がれているのでしょうか？

2 北野小学校校歌に歌われるもの

町名の由来となった北野天満宮。神社に伝わる縁起によると、天喜2（1054）年に建てられました。祭られているのは、学問の神様として有名な菅原道真です。道真は京都から大宰府へ流される途中、追手から逃れ大分に上陸、筑後川を下り北野町に来たと伝えられています。その道真と筑後川に住んでいたというカッパにまつわる逸話が北野町には残されており、その話を裏付けるように、今も北野天満宮には「カッパの手のミイラ」が伝わっています。このカッパの手は、本殿に祭られています。残念ながら一般公開されていません。

また、町内各所に道真ゆかりの地名もみられます。追手の目をくらますために道真が女性の衣装に着替えたと伝わる「衣装丸」。その衣装を燃やしたとされる「灰塚」。追手の目を逃れ、休憩するときに牛をつないだことに由来する「牛塚」。北野町と道真とのゆかりを今に伝えるものは多く残されています。

3 金島小学校校歌に歌われるもの

金島小学校の校歌を聞くと、「五庄屋」という言葉が登場します。五庄屋といえば、大石堰・長野水道の五庄屋が有名ですが、金島小学校に歌われる五庄屋は^{とこじま}床島堰・床島用水の建設に尽力した五人の庄屋のことです。

北野町のシンボルの一つ。床島用水。その源になる床島堰は正徳2（1712）年つくられました。



床島堰 ②

では、なぜ床島堰が必要だったのでしょうか？筑後川から直接水を取ることは不可能です。目の前に水があるにもかかわらず、です。本当は、目の前にないんです。だから、目の前にもってくることを考えました。

その結果、現在、約3,000ヘクタールの水田を潤し、その面積は北野町の面積の約1.5倍にも及びます。近年、床島用水はコンクリートにより護岸工事が進み、かつての姿は失われつつあります。しかし、姿を変えても、北野町に恵みを与えつづけてくれることに変わりません。

4 大城小学校校歌に歌われるもの

大城小学校の校庭の隅、ひっそりと一つの井戸が残っています。これが大城小学校の校

歌にも歌われている^{ますかげのい}益影ノ井です。

神功皇后が朝鮮半島遠征のとき、蚊田宮で応神天皇を生み、このとき産湯として献上されたのが、この益影ノ井の水であった、とされています。地元では、高良山の御手洗ノ井、朝妻ノ井、と並び三井の三泉の一つに数えられ、三井郡の名前の由来になったといわれる名泉のうちの一つといわれています。



益影ノ井 ③

昔から、産湯としてこの清水を使うと、生まれた子は美しく賢く長生きをする、といわれ、村人たちはこの井戸を大切に守ってきました。現在はこの井戸から産湯をとることはできなくなりましたが、大城校区のシンボルとして、地元の人々により今も大切に守られています。

5 弓削小学校校歌に歌われるもの

現在、北野町から旧久留米市に行くためには筑後川を渡らねばなりません。昔の人にとっても、この川を渡ることは大問題の一つでした。そのため、船で川を渡る「渡し場」が数多く置かれていました。

その一つが弓削小学校の校歌にも歌われた^{くましろのわたし}神代渡し。主な交通手段が徒歩か船であった昔、九州の交通ルートは限られていました。縦軸を坊ノ津街道（陸運）、横軸を筑後川（水運）と考えると、これらが交わるのは、この神代渡しになります。つまり、神代渡しは、九州の交通の要所であったのです。

また、神代渡しには、神代浮橋跡というお話も残っています。それは「約700前の元寇のとき、南九州の武士たちが博多湾へと向かう途中、増水した筑後川が行く手を阻んだ。その際、神代渡しに船で浮橋をかけて、無事に筑後川を渡すことができ、そのおかげで元を



神代橋と浮橋の碑 ④

撃退できた」というものです。

かつての御井郡（三井郡）を一つにつないでいた橋、神代橋。平成17年2月まで北野町と旧久留米市をつないでいた神代橋。今は合併して久留米市となりましたが、これも歴史の偶然なのでしょうか？

6 北野町にある指定文化財

最後に、北野町にある指定文化財をご紹介します。

県指定は5件あります。先にご紹介した北野天満宮に全てあります。参道から境内に入ると、赤い太鼓橋があり、橋を渡ると鳥居があります。この鳥居は肥前鳥居（別名、慶長鳥居）と呼ばれ、有形文化財（建造物）に指定されています。鳥居の隣には大きな樟木があり、天然記念物に指定されています。この神社には二つの宝物が残されています。筑後国北野天神縁起（有形文化財、絵画）はこの神社の起こりや天神様のご利益を今に伝えていいます。銅製鱧口（有形文化財、工芸）はお祈りをするとき「ガラガラッ」ってやる、アレです。鱧口には、享禄4（1531）年に铸



北野天満宮石造鳥居 ⑤



北野天満宮の大樟 ⑥



筑後国北野天神縁起 ⑦



北野天満神社神幸行事 ⑧



銅製 鱧口 ⑨

造されたと刻まれています。今では神社よりもお寺でみることの方が多くなりました。

毎年10月の第3日曜日には、北野天満神社神幸行事が盛大に執り行われます。

市指定は3件あります。北野町で一番古い石碑は良積石（史跡）です。貞和5（1349）年という年号が彫り込まれています。天気がいい日には、今でも掘り込まれた文字を読むことができます。



良積石 ⑩

鏡の専称寺には、五庄屋の一人である鹿毛家に伝わっていた床島堰築造絵図（有形文化財、絵画）が保管されています。この絵図には、堰築造当時の様子とその手順や注意事項などが絵と文章で細かく記されています。

黒岩家のモチノキ（天然記念物）は、幹周り3.16メートル、高さ17.7メートルもあり、樹齢は400年くらいと考えられています。森林の少ない北野町にとって、自然と緑のシンボルとして、平成8年に北野町文化財に指定され、合併にともない久留米市文化財になりました。

北野町において400年の歴史をもつ黒岩家の邸内であって、今も町の歴史を見守りつづけています。



床島堰築造絵図 ⑪



黒岩家のモチノキ ⑫

